

胡研究室

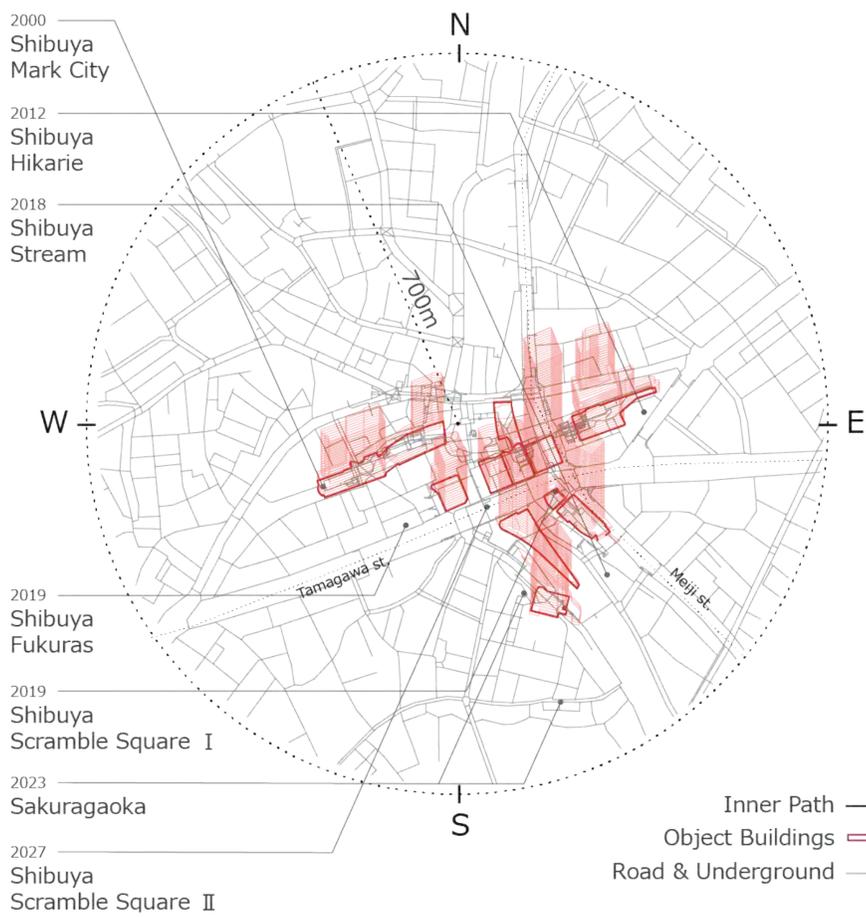
アジア都市TOD



人間・社会系部門
アジア都市TOD寄付研究部門

都市TOD工学

<https://www.hulab.iis.u-tokyo.ac.jp/>



国際連合は2050年までに、世界で1,000万人以上の人口を抱えるメガシティの数が43に増加し、そのうちアジアの都市が60%を占めると予測しています。メガシティは、大規模な人口移動、輸送、インフラの整備、複合機能の集約、および安全性を保障できないといけません。その中でも、交通システムと都市開発を如何に協調的に計画していくのが最大の課題の一つとなるでしょう。高効率かつ大量の公共交通サービスを提供できる、「公共交通指向の都市開発」を提唱するTODモデルは、メガシティにおける資源の効率的な配分のための最善の解決策と考えられます。

世界最大の都市のひとつである東京では、高密度の鉄道網に支えられた大都市圏での開発、高度な立体交通システムを特徴とする再開が進められており、「大都市TODモデル」としてアジアの都市の見本になります。本研究室では「都市再生緊急整備地域」に指定された渋谷駅周辺地域における歩行者ネットワークの分析を行い、渋谷駅再開が歩行者に与える影響の一端を明らかにします。2011年に渋谷ヒカリエが完成した時点と、2027年にスクランブルスクエア第2期が完成する時点の歩行者ネットワークを対象として、歩行者到達圏やトリップ距離分布を考えた媒介中心性の分析を行っています。

